

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)総括表

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況	主な取組内容	
1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	26	◎	2	ふれあい・いきいきサロン、コミュニティカフェを実施。様々な工夫を凝らし地域の高齢者の仲間づくりや交流の場を提供。ふれあい・子育てサロンの実施。地域ぐるみの子育て支援に取り組む。Instagramでの子育てサロン動画の配信を行う。歩こう会、グラウンドゴルフ、ポッチャ、バレーボール大会等の運動イベントの開催。介護支援・介護予防教室、福祉の集いの開催。健康体操、ラジオ体操等を通し健康づくりに取り組む。
		○	12	
		△	5	
		×	7	
2 あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	13	◎	1	訪問、あんしんカード配付、広報紙による地域住民への啓蒙、理解促進等に取り組む。支えあい活動により、買物、付添、ゴミ出し等の支援を行う。高齢者等の見守り活動者や普及のための地域住民の説明会の実施。地区部会や町内自治会の広報や各種イベント等で福祉活動推進員やボランティアの募集を行う。
		○	6	
		△	2	
		×	3	
3 備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	7	◎	0	地域自治会やボランティア活動により防犯パトロール、セーフティーウォッチャー等の見守り活動、チラシ回覧にて注意喚起を促す。防災マップ作成準備、町内自治会に対し自主防災組織設置の働きかけ、防災訓練、防災講習会等の開催、町内自治会と地区部会による災害時要支援者情報の共有化検討等に取り組む。
		○	2	
		△	2	
		×	2	
4 必要な情報が行き渡り、気軽に相談しあえる仕組みをつくりましょう	2	◎	0	「ミニ福祉通信」等の広報紙を発行。地域福祉に関する多様な情報提供を実施。地域ケア会議を開催し地域課題の共有と意見交換を行う。サロン開催や広報誌作成時にあんしんケアセンターと連携し、相談窓口の設置や介護保険等の情報提供に取り組む。
		○	1	
		△	0	
		×	1	
5 世代を超えて、ともに学び合い参加できる仕組みをつくりましょう	3	◎	0	ふれあい祭等を通した子供たちとのふれあい、小中学校の夏季及び冬季休業時に学校と地域との連携による工作教室や昔遊びの実施。高校、大学、地域住民並びに地区部会の連携によるふれあい・子育てサロン、各種講座を実施。広報誌を発行し、福祉教育に代わる啓発や福祉に関する地域への情報提供を行う。
		○	1	
		△	1	
		×	1	
今年度の振り返り	51	◎	3	令和4年度も前年に引き続きコロナウイルス感染拡大の影響で活動の中止や見合わせをするケースもあったが、その中で感染予防対策を講じて可能な活動は積極的に継続され、広報誌や物品等の配布による交流や啓発の実施、SNS等を活用したりモートによる活動等、様々な工夫やアイデアを盛り込んだ地域活動の事例がみられた。
○	22			
△	10			
×	14			

※「一：評価が困難である場合」(2件)は達成状況の集計に未反映

今後の課題と方針	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防に配慮した活動を検討していく ・若葉区全体としての活動の一体化を推進していく ・地域活動に対する住民の理解や活動の見える化を進めていく ・高齢化に伴う地域活動の担い手不足や介護等の問題に取り組んでいく
----------	---

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	7月14日(金)	・新役員の選出及び今年度の協議会の運営、開催予定について ・令和4年度の取組状況の調査について ・第5期若葉区支え合いのまち推進計画の中間見直しについて
第2回	10月27日(金)	・第5期若葉区支え合いのまち推進計画の中間見直し原案について ・令和4年度の取組状況の調査の報告について
第3回	月 日()	

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第28号	令和6年2月予定	発行部数:825部 主な配布先:市民センター・公民館等300部、自治会205部、各地区部会280部 老人クラブ40部

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

<p>【白井地区】</p> <p>1. コロナ禍における地域福祉活動の推進 ①集合実施から分散活動も実施。白井地区部会は東西12kmとエリアが広い。中間にある白井公民館で実施していたイベント(認知症講座、ポッチャ体験会)を、自治会に出向き実施。参加者から好評を得た。(高齢化に伴い集まりやすい、ポッチャは楽しい) ②わくわくパックの推進(児童母子福祉委員会) 子育てサロン(偶数月6回)の他に、奇数月6回に幼児用の工作キット(わくわくパック)を作成し、公民館のロビーで配布。30キットが2週間でなくなり好評。 ③タオルでボランティア(ボランティア委員会) ・家庭に眠っているタオル(新品、再利用可能)の提供を受け、白井地区の13施設(高齢者、障害者、グループホーム)に配布。施設との繋がり、意見交換の場が出来た。施設からも、地域に協力できることを模索中との意見をいただく。(買い物支援については、野呂自治会(昌晴園)、野呂団地自治会(若葉泉の里)で実施中。他、美香苑、恵光園でも買い物支援を実施中) ・タオルの帽子を作って施設に贈ろう:日赤25分団がボランティア委員会と連携し、40個の帽子を作成、地区内の6施設に贈呈。</p> <p>2. 活動の拡大 ①R4年度、いきいきサロンの状況:組織の高齢化に伴い活動終了が1件、新たに2つのサロン(囲碁将棋、ヨーガ研究会)が登録された。 ②ガイドヘルプ講座の実施:障害を持つ方へのサポート講習会(知的障害・自閉症疑似体験講座、聴力の弱くなった方への対応)参加者に好評であった。</p> <p>【26地区】</p> <p>いずみ台ローズタウンと大宮台を歩いて交流できる生活・通学路(小学校統合も大きな要因)を設けるため、令和3年度から旧農道・山道を調べ草竹を刈取り、折重なった倒木を除去して道筋をつける活動を展開すると共に、行政に対しても整備要請を連協を通して行い、少しずつではあるが、行政も動き、話し合いのテーブルも2回、開かれた。</p> <p>【都賀地区】</p> <p>かねてより地区部会活動の「みえる化」が懸案事項であったが、折しもコロナ禍によりすべての活動の休止を余儀なくされ、活動の代替えとしてミニ福祉通信「みんな仲間」を令和2年1月から隔月発行し、今年度も継続している。住民に寄り添う地区部会活動の趣旨から、大切な福祉関連情報を広域的に回覧で住民に提供した。</p>
--

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】

◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合

×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
—:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目 (第4期計画の重点取組項目)	令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
			第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
坂月地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・コロナの影響により開催自粛せざるを得ない状況。 ・地域の皆さんが集っても大丈夫かどうかの見極めの時期が今後の課題	現状維持とする。	・令和4年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、“歩こう会”、“グラウンドゴルフ大会”を自粛としたため、実施には至らなかった。	×	※令和5年度は、第5期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和5年度から令和8年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
【人口・世帯数】 4,884人、2,220世帯			⑭ 防犯・防災意識を高め実践する。	・住宅の造成、災害(台風、豪雨)で新しい内容が出てきており、マップの作成が出来なかった。	令和4年度作成予定。	・令和4年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、地域活動全般を自粛としたためマップの作成には至らなかった。		×
【町内自治会数】 5町内自治会			⑯ 地域福祉に関する情報の発信	・コロナの影響により開催自粛せざるを得ない状況。 ・地域の皆さんが集っても大丈夫かどうかの見極めの時期が今後の課題	広報紙は発行する方向に考えている。	・令和4年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、広報紙の発行には至らなかった。		×
【高齢化率】 21.1%	4 必要な情報が行き渡り、気軽に相談しあえる仕組みをつくりましょう	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	・活動を支える人員を増やす必要があるが、コロナ禍がおさまる時期を見て呼びかけをする必要がある。	高齢者のサロン等の集会はコロナ禍の中で見通せないが、小学生への見守り活動は拡充すること。	・都小学校と北貝塚小学校区内のセーフティウォッチャーは継続出来た。 ・昨年に引き続きコロナウイルス感染防止の観点からサロンの開催が実施できなかった。(令和5年度から民生委員による高齢者(75歳以上)を対象とした実態調査が再開されたことを契機に高齢者への声掛けや見守りの機会が増えてきている。)	△	同上	
【地域の特徴】 戸建住宅が少しずつ増え、新住民も増えてきているが、多くの生徒は、千城台西小学校へ通学しているため、エリア内にある坂月小学校(市内で最少人数)に通学する生徒は少ない。			④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・資金的な制約や担い手の高齢化が進み、継続することが厳しい状況ですが、これまでの取組は守りたい。	大きな集会活動は見通せないのが、無理であればどのようなことができるか検討したい。	・コロナウイルス感染防止の観点から芋煮会・健康セミナー・ボランティア講座等は実施には至らなかった。		×
【人口・世帯数】 6,504人、3,664世帯			⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	・高齢者の参加は年ごとに減少している。高齢者は増えているが衰えから体調を悪くする人が増え、拡大できていない。 ・喜んで参加していただける企画、行事とするか、足を運んでも楽しみとなるためには等、検討していく。	コロナ禍がどのように展開するのか？集会をするためにはどのような催しとするか、まず検討する。	・いきいきサロン(65歳以上対象・年間5回予定)、お話し会(小学校6年生以下対象・年間2回開催予定)共にコロナウイルス感染防止の観点から実施に至らなかった。		×
【町内自治会数】 9町内自治会	2 あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑨ わたしたちのまちの福祉を考える会(仮称)の設置	・最初から話し合いをする。 ・情報の入手、各町会が必要とする企画を考える。	各町内自治会の考えが異なるため、同じ方向の情報、話題を検討する。	・令和4年度の目標に挙げた「全町内・自治会で話し合う会」の設置に至らなかったが、社協地区部会で三役会を開催する際は、各町内・自治会長に出席頂き連携を図った。	△		
【高齢化率】 21.1%			⑬ 防犯活動の実施	・地区部会全体での行動、統一した取り組みはあまりできなかった。青パトの巡回を全体に広げること考えたい。(講習を受ける人を増やす)	個々の人が取り組める防犯、防災への意識を高める。コロナ感染を防ぎながら取り組めるものを検討したい。	・地区部会全体で統一した活動には至らなかったが、各町内・自治会で防犯対策をしており、青パトによる巡回等を行っている。また都小学校区内は、こども110番のポスターの掲示協力をしている。	△	
【地域の特徴】 代々続く旧家の多いエリアと、造成地へ戸建てが立ち、そこへ住む転入住民、賃貸住宅の多いエリアなどが混在し、古くから住宅のあるエリアでは2世代、3世代同居の家も多い。	3 備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう	⑭ 防災・減災活動の実施		・大きな進展はなし ・台風被害を経験しているが、地区全体として何かを統一してできるか、それぞれ違いがある	具体的な訓練を実施できる形を作っていく。	・各町内・自治会で防災組織は整っているが、防災訓練等はコロナウイルス感染防止の観点から実施出来なかった。	×	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】

◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合

×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
—:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目 (第4期計画の重点取組項目)	令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
			第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
桜木地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	② 子育てしやすい環境づくり	・ととけっこの存在が少しずつでも周知されてきているように感じる。 ・地域協力者として桜木保育所との連携が定着した。所長が異動の際の引継ぎを行ってくれている。 ・前指導者の後継となる方が見つかり、安定した運営に見通しがついた。 ・運営側の引継ぎ体制が課題	新型コロナの不安が残る中、無理のないサロン運営。	・子育てサロン「ととけっこー」を開催。(10回/年) 新型コロナ感染拡大防止のため、定員5組・事前申込とした。 実施日=8月、12月を除き年10回の第4月曜日	○	※令和5年度は、第5期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和5年度から令和8年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり			・既に活動しているサロンはいずれも工夫を凝らして熱心に取り組んでいる。サロンが無い自治会の方へ声掛けをしたが、新規サロン開設には至らなかった。 ・サロンがない自治会の殆どは自治会館等の公的な活動場所有り。公民館は予約が難しい状態なので、新たなサロンの開設は厳しい。	新型コロナの不安が残る中、無理のないサロン運営。	・いきいきサロン7か所のうち4か所が活動した。活動した各サロンはそれぞれ新型コロナ感染予防の工夫を行った。	△		
⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり			・普段ならばスポーツ等のイベントが盛んな地域で、参加者数も安定している。新型コロナのために後期活動がすべて中止になり残念だった。 ・新たな住民に向けて、イベント周知と参加を声掛けが課題。	新型コロナの不安が残る中で、無理ない事業企画。中止もやむを得ずとする。	・10/30に地区部会主催「グラウンドゴルフ大会」を開催。参加者50名。 ・ふれ合い食事会に代わり、「ポッチャ体験会」を開催。参加者55名。	○		
2 あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう		⑪ 見守り活動の仕組みづくり	・自治会単位で見守り活動を増やすことは簡単ではないことが分かった。 ・当会では年末に80歳以上独居者・65歳以上寝たきり高齢者・18歳未満心身障害児を慰問している。このような地区全体での見守り活動は今後も続けたい。 ・他地区での見守り活動実践例を知り、地域で活かす。	・新規見守り活動の定着。 ・年末慰問金の配布活動。(当該家庭を訪問)	・桜木町第四町内会にて見守り活動を実施した。 ・12月に対象家庭を訪問し、年末慰問金の配布を実施した。 ・桜木公民館にて「見守り説明会」を開催。	○		
			小倉地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	② 子育てしやすい環境づくり	・例年11月第2金曜日小倉中央自治会館にて開催は定着している。 ・例年20組前後の親子の参加がある。内容はほとんど変わらず開催している。 ・コロナ禍の中、消毒、検温、ソーシャルディスタンス、おもちゃの共有可否が課題 ・会場に定員があるため、先着順にするのか等話し合っていき、11月開催を目指す。		スタッフの人数が少なく、回数が1回に終わっているため、年2回開催に向けて、社協全体の活動として捉えていければと考える。
2 あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	・毎月1回の開催を楽しみにしている参加者が増えた。スタッフと顔なじみになり、他の場所でも声を掛け合っている。継続は力なり。 ・地域内1カ所の開催がどうかと考えたが、他の地域では場所やスタッフの確保が難しいので、エリア中央の1カ所を充実させることを考えたい。	参加者を増やすことと内容を充実させること。			・「いきいきサロン」:11回/年 延125名 ・「おりがみ教室」:9回/年 延67名 ※サロン終了後、運営委員会を開催し、問題点等を議論、検討を行った。	○	
		⑪ 見守り活動の仕組みづくり	・安心カードは、消防署とも連携を取っている活動なので、今後少しでもスムーズに行く様を考えていきたい。			民生委員の健康調査実施後に75歳以上高齢者に配布を継続したい。	・令和3年度は、コロナ禍の中、配布出来なかったが、今年度はスムーズに行われた。安心カードは、消防署とも連携を取っている活動なので、今後少しでもスムーズに行く様を考えていきたい。	○

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】
 ◎:年度目標以上のものが達成できた場合 ×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
 ○:年度目標が概ね達成できた場合 ー:評価が困難である場合
 △:年度目標の一部が達成できた場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目 (第4期計画の重点取組項目)	令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
			第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
白井地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	・概ね実施できた。次年度に向けて参加グループを増やす。 ・サロン参加者が固定化している。既存グループに新規参加者が入りづらくなっている。(指導者も一緒に高齢化)新しいグループを立ち上げるためにグループリーダー発掘が課題。	コロナ禍でできるサロンを検討・実施する。	・白井地区部会のいきいきサロンは10か所で実施。 ・コロナ禍の為、休止の自治会あり(3)。7か所で実施。 <工夫した取組例>「回覧サロン」 集まらないので、参加メンバー家順の一覧表を作り、近況を書き、お知らせを回覧する仕組み。誕生月の方には記念カード(皆の寄せ書き)を贈呈。	○	※令和5年度は、第5期計画の中間見直し作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和5年度から令和8年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
【人口・世帯数】 6,270人、3,476世帯			⑧ 活動の中核となる人材の発掘	・委員会活動の取り組み姿勢が前向きであった。 ・役員の高齢化が進んでおりボランティアのなり手が見つからないことが課題。	・委員会活動を通じて人材を発掘する。 ・住民参加のイベントを増やす。	・令和4年度は福祉活動推進員10名となった。(体調不良で1名が9月から活動を休止) ・ボランティア委員会において「シニアサイン講習会」を実施。アンケートでは実用的でわかりやすく、日常生活や地域活動において参考となったとの声が多く寄せられた。 ・委員会活動の構成メンバーに協力員枠を設定した(障害者委員会のポッチャ審判に加入された)		○
【町内自治会数】 18町内自治会			⑫ 活動団体同士の連携・交流	・初年度は地域主体の学習会を実施し、次年度は地域の課題となっている「ふれあい食事会(試行)」を実施した。本年度は当初の目標であった「地域ケア会議」を実施した。ケア会議の実施により地域の課題が顕在化した。白井地区部会は活動エリアが広いので、テーマごとに多様化が必要。	地域の課題が明確になったので引き続きケア会議を実施する。	①高齢者見守り活動4自治会により継続して実施。 ②ふれあい食事会連絡会はコロナ禍高齢者施設の立ち入りが出来ない為未実施。(ふれあい食事会準備会を開催) ③地域ケア会議の開催(R4.11.5実施) 「地域の困りごと」をテーマとして会議を実施。		○
【高齢化率】 48.5%	2 あなたもわたしも地域の一員、身近な支えあいの仕組みをつくりましょう	⑭ 防災・減災活動の実施	・防災対応の行動が組織的にできなかった。	災害の被災体験をもとに地域防災のありかたを検討する。 自主防災組織のない自治会は小規模自治会であり、あえて各自治会に組織化するよりも災害対応(減災)への効果のある取り組みを個別具体的に検討する必要がある。	・R4年度は、各自治会に防災組織を立ち上げるよりも、災害対応へのポイントを絞った内容(例えば、高齢者の安否確認や、避難誘導、緊急物資の確保、近くの公共施設との連携等)を個別に取り組む必要がある。	△		
【地域の特徴】 対象エリアが非常に広く、大きく3つの地域(西部・東部・中部)に分けられ、それぞれ異なる歴史・成り立ちを持ち、昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。			3 備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう					
更科地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	・地域住民の健康や安心、安全が守られない中での計画推進は難しかった。 ・自然災害やウイルス感染で露呈された課題を慎重に検討していく。	まずはコロナウイルスの感染防止から生じた課題を確認し、今後の取り組みを考えていく。	・民生委員による高齢者実態調査が延期、中止となったことからもわかるように、声かけや訪問等にも自粛せざるを得なかった。	×	同上	
【人口・世帯数】 2,510人、1,362世帯			④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・「安心、安全ですからどうぞお越してください」と言えない限り、地域住民への交流活動は推進できないのではないか。	コロナウイルスの感染防止で露呈した社会福祉活動の課題を明らかにし、取組を推進していく。	・敬老会の実施については市より自粛要請を受け中止。しかし、親子凧揚げ大会については感染対策を徹底し開催することができた。		○
【町内自治会数】 13町内自治会			⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	・今後も現在の団体が継続できるかは見通しが立たない。 ・コロナ感染以外にも課題が残されている。 ・簡単に言えば、多くの支援者がサロン運営を支えていかない限り取り組みは続いていかない。	当面はコロナ感染の拡大を速やかに防止する政治の対策を待ちたい。	・「いきいきサロン」2ヶ所で実施。R5年度の計画についてはスタッフの確保が課題である。		○
【高齢化率】 44.2%			⑮ 災害時に避難できる体制づくり	・平成30年度 ①避難所運営委員会設立準備会の立ち上げ ②委員会規約作成 ③委員会成立 ・平成31年度 ①避難所開設、運営マニュアル作成 ②避難所運営訓練実施、運営マニュアル見直し ・令和2年度 ①全体避難訓練マニュアル作成、訓練実施	この期間内に具体的に話し合われたことが確認できない。すでに18連協では検討は終わり、体制ができあがっているのかもしれない。	同左		ー
【地域の特徴】 対象エリアは非常に広いが、住基人口(2,683人)、世帯数(1,237世帯)は区内で一番少ない。 多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くなく、高齢化率は高いが、現役農家世帯が多く、元気な高齢者が多い。	3 備えあれば憂いなし、安全と安心の仕組みをつくりましょう							

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】

◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合

×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
—:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目 (第4期計画の重点取組項目)	令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
			第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
御成台・千城台西北地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	② 子育てしやすい環境づくり	・母親同士の情報交換の場であり、癒しの時間が作れた場であった。 ・コロナ禍のもとでは同様の触れ合いの活動は難しく、異なる形態を模索する。	母親同士の情報交換、癒しの場を異なる形態でどのように作っているか考えていきたい。	・新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底したうえで実施した。 ①子育てサロン「たんぼぼ部」 6月:ベビークラス 7月、10月は雨天中止 2月:親子で簡単おもちゃ作り ②夏休み子どもチャレンジ教室 ③子どもチャレンジ教室	○	※令和5年度は、第5期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和5年度から令和8年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり			・コロナ禍のもとであるからこそ、自宅での体操やウォーキングの重要性を話続けてきた。活動をリードしてくれた役員には頭が下がります。手を変え、品を変え、今後はポールウォーキングを広めることとしている。	人は歩くことが健康長寿のためにもっともよい。高齢者でも体に負担をかけずに歩けるポールウォーキングを広めていきたい。	・この項目の活動は従来にも増して充実してきているが、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底したうえで実施した。 ①いきいき健康体操 3回/年 ②ポールでウォーク 雨天による中止もあったが、2回/月程度※の実施しポールウォーキングによる健康維持に努めた。 ③ポッチャ体験会 2回/年 ④介護支援及び介護予防教室の開催 ※猛暑は避け、良い季節は月2回行っている。	◎		
⑫ 活動団体同士の連携・交流		・隣接している地区部会とはいろいろな相談ができる関係にある。一方、関連自治会とはなかなか進展が難しかった。 ・活動団体同士の連携にはお互いが呼び合う呼吸が大事と痛感する。それが難しいと感じる期間であった。 ・新しい感覚の若い役員の出現を常に模索しているが、永遠の課題。	近隣自治会や同業の地区部会との連携は穏やかに模索を継続。	・コロナ禍のもと他団体との情報交換や協議ができる状況になかった。従って活動は低調に終わる。 ・穏やかに連携を探る努力は行っていきたい。	—			
千城台東南・金親地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	・コロナ禍の中、いきいきサロン、ふれあい給食を利用している方々の気持ちをくみ取り、いかにして再開できるようにするか検討。	同左	1.サロン活動…状況を見ながら感染防止対策を十分とって実施した。 ・ふれあいサロン東町 11回/年(8月休み) 参加者合計100名 ・ふれあいサロン南町(会場:子ども食堂借用) 11回/年(8月休み) 参加者合計95名 2~5.ささえあい組織「たんぼぼ会」…感染防止対策を十分とり、普段通りの活動を実施。買物9件、付添178件、ゴミ出し803件、他47件 合計1,037件 6.ふれ合い食事サービス…感染防止対策を十分とり、6回/年 合計220食を提供。	○	同上	
⑫ 活動団体同士の連携・交流			・コロナ禍の収束が見込めない中、会員間の情報、ふれあい、支援をいかに活かしていくかが課題	同左	・グラウンドゴルフ大会は降雨のため中止。 「ひまわりの会」及び「障害者副申会」による懇談及びハーモニカ演奏をもとに歌を唄う会を開催。	△		
⑮ 福祉こころを育む活動の実施		・令和2年度はコロナ禍のため一部の活動を除き中止したが、期間全体を通して見れば概ね計画通りに実施できた。コロナの収束状況を注視しながら再開できるところからはじめていきたい。	同左	・みらい小学校「昔あそび」生徒40名、ボランティア17名。 ・東小学校「昔あそび」生徒45名、ボランティア16名。 ・公民館にて「冬休みなかよし教室」生徒23名、ボランティア17名。	○			
26地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	③ 公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	・高齢化に伴う参加者の減少、令和2年度新型コロナウイルス感染症予防のため、さらに参加者の減少があり見直しが必要。	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。	・26連協主催 家庭バレーボール大会を開催した。(毎年実施行事) ・26連協主催 大宮中体育館で45名が参加し元気にプレーした。(毎年実施行事) ・グラウンドゴルフ大会 感染防止対策を十分とり、大宮中学校の校庭で実施。住民の健康づくりと住民同士の交流に取り組んだ。 ・ラジオ体操GV大宮台は4箇所から5箇所に増加した。	◎	同上	
⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり			・高齢化に伴う参加者の減少もあり、事業の見直しが必要。	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。	・感染防止対策を十分とりながら、早起きラジオ体操・元気で歩こう会・安心カード・安否確認電話連絡・高齢者見守りネットワーク・一人で避難できない人の介助・公園清掃除草・ゴミ出し支援・買物支援を実施した。	○		
⑬ 防犯活動の実施		・概ね実施できた。	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。	・感染防止対策を十分とりながら、地域の安全を守るため、各自治会でボランティア活動により防犯パトロールを実施した。パトロールの際、出来るだけ「見守り」活動をするよう心掛けた。	○			

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】

◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合

×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
—:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目 (第4期計画の重点取組項目)	令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
			第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
若松地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	② 子育てしやすい環境づくり	・目標には届かなかったが、平均8人の安定的な参加は、大きな成果とした。 ・コロナ感染症の終息。加えて終息後の開催時には参加者増を目指したチラシ等のPR方法に努めた。	「参加者増加へ向けた周知の方法、内容の充実を図る」ことを継続する。	・令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、「子育てサロン」を自粛としたため、実施には至らなかった。	×	※令和5年度は、第5期計画の中間見直し作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和5年度から令和8年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり			・実施できた単年度(令和元年度)で目標が達成できた。 ・今後はコロナ感染症が終息しなければ何もできない。	この感染症が落ち着くまでは計画を行うのも心配。	・令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、「いきいきふれあいサロン」を自粛としたため、実施には至らなかった。	×		
⑮ 福祉のこころを育む活動の実施		・令和2年度をのぞく2過年度とも目標が達成できた。 ・生徒、保護者、我々ボランティア、三者にとっても貴重な経験ができる事業であったので、できれば再開を目指したい。	コロナが終息し、また学校も考え、方向づけにより左右すると思うが、事業に携わる全ての方にとって貴重な経験となるこの事業の再開を目指したい。	・令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、実施には至らなかった。	×			
加曾利地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・社会貢献を積極的に行いたいので相互交流を実施したいとの心強い言葉をいただいた。今後、地域行事でのふれあい交流活動を実施したい。 ・社会貢献を積極的に行いたい企業と相互交流を実施し、高齢者の福祉ニーズに応えていきたい。	総論的な話も時には必要であるが、これに加えて、身近な福祉活動を行ってゆくには、企業の力添えも必要だと考えている。	・コロナウイルス感染症のため、社会貢献を積極的に行いたい企業と相互交流を実施できなかった。	×	同上	
⑧ 活動の中核となる人材の発掘			・地区部会や町内自治会の広報等で積極的に福祉活動推進員やボランティアの募集を行なった。	地域で定年を迎えた方や元気な高齢者に呼びかけ、これまで培ってきた知識や技術などを生かし、地区部会活動に参加していただく。	・地区部会や自治会の協力を得て、役員2名(会長・事務局)の新規役員等になっていただいた。(R3年度より継続)	◎		
⑫ 活動団体同志の連携・交流		・活動団体同志の連携・交流を通じて身近な福祉問題を議論する場ができた。 ・町内自治会、民生・児童委員、あんしんケアセンター等が情報交換や意見交換を定期的に行う仕組みづくりが必要。	自治会、民生・児童委員、あんしんケアセンター等が情報交換や意見交換を定期的に行う仕組みづくりを検討していく。	・コロナウイルス感染症のため、各団体との情報交換や意見交換を定期的に行う仕組みづくりを検討していくことができなかった。	×			

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】

◎:年度目標以上のものが達成できた場合
○:年度目標が概ね達成できた場合
△:年度目標の一部が達成できた場合

×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
—:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目 (第4期計画の重点取組項目)	令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
			第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
都賀地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	② 子育てしやすい環境づくり	・コロナ禍による活動の抑制を除けば概ね計画を遂行できた。 ・コロナ収束後の円滑な移行と平常活動の復活に注力したい。	幼児が相手の活動であり、コロナ収束後も慎重に対応したい。	・4月より子育てサロンひなた始動(月1回) ・フェイスブックに加え新たにInstagramでの動画『ひなたチャンネル』の配信を行った。	○	※令和5年度は、第5期計画の中間見直しを作業を実施しており、各地区部会で新たな重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、令和5年度から令和8年度にかけての年度毎の年次取組目標および具体的な活動計画を策定中である。	
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり			・町会、自治会に1活動組織の構想があったが、会場、世話人等の開催要因もあり、福祉活動の推進面でも厳しい実情を把握した。 ・独居者(お一人さま)や要介護支援者のサロンへの勧誘、招聘などは民生委員の協力が不可欠だが、この協力関係の推進・維持が課題。活動のマンネリ化が課題。	コロナの収束を待って、活動趣旨などの再啓蒙などを行ってから再開。「協力したい。参加して皆との仲間意識を共有したい。」など、皆で楽しく支えるサロンを目指す。	・①いきいきサロン「健康づくりの会」:9月から再開(月1回) ②コミュニティカフェ:5月から再開(月1回) ③親睦・研修旅行:中止	△		
⑪ 見守り活動の仕組みづくり		・ミニ福祉通信(みんな仲間)での回覧啓蒙による効果は計測できないが、こうした啓蒙活動は「継続は力」と信じて、引き続き実施していきたい。 ・「見守り活動の仕組み化」は都賀の台地域は組織的に対応しているが、その他の地域の具現化は見込めていない。民生委員との連携活動が不可欠である。	引き続きミニ福祉チラシ「みんな仲間」の中で、ご近所福祉活動の一環としての協力方、啓蒙していきたい。	・ミニ福祉通信「みんな仲間」令和4年1月号で『お一人さまの生活不安対処について(各種サービス一覧表)を全域に回覧した。 ・地区部会ではテーマとして「ご近所福祉による見守り」が要としている。都賀の台では「支え合いの会」が主導し、自治会の広報誌などで断続的に啓蒙している。	○			
		⑫ 活動団体同士の連携・交流	・協力関係の維持に努めているが、あんしんケアセンター都賀の関係者のご協力によるところが大であり、さらに円滑な連携活計の推進に努めたい。 ・町内自治会や福祉関係組織・団体との日常的交流と連携により、厚みのある活動が期待されるが、それぞれ組織の独自性や事情もあり、協力関係の一元化は難しい。	引き続きミニ福祉チラシ「みんな仲間」の中で、活動団体同士の連携・交流の重要性について啓蒙してまいりたい。	・ミニ福祉通信「みんな仲間」発行のため、あんしんケアセンター都賀と連携を密にした。 ※同様の目的で社協若葉区事務所との連携も維持した。	○		
4 必要な情報が行き渡り、気軽に相談しあえる仕組みをつくりましょう		⑬ 地域福祉に関する情報の発信	・コロナ禍下においてほとんどの活動が抑制された中で、福祉に関する啓蒙チラシを隔月で全域に回覧することで、地区部会活動の一翼を担うことができた意義は大きい。 ・このミニ福祉通信が地区部会活動の一環として定着し、より親しまれ評価されるものにするには、提供情報の質、チラシの編集技術など様々な課題がある。	引き続き隔月発行に努めたい。	・コロナウィルス予防対策のため全ての活動を中止となり、役員・会員相互の交流が途絶える中で、地区部会活動の見えるかを図る方策として、地区部会活動の代替活動の一環としてミニ福祉通信「みんな仲間」を令和2年1月から隔月発行し、今年度も継続している。 ※大切な福祉関連情報を広域的に住民へ提供することで、共に考える機会になればとの思いで継続している。 ※都賀の台の一部地区では内容により各家庭に配布された。	○		
	⑭ 地域での福祉教室等の開催と活動支援		・コロナ禍下においてほとんどの活動が抑制された中で、福祉に関する啓蒙チラシを隔月で全域に回覧することで、地区部会活動の一翼を担うことができた意義は大きい。 ・このミニ福祉通信が地区部会活動の一環として定着し、より親しまれ評価されるものにするには、提供情報の質、チラシの編集技術など様々な課題がある。	引き続き有意義な福祉情報を発信し、教室活動以上の成果を期したい。	・コロナウィルス予防対策のため講習会や研修会など中止となり、ミニ福祉通信「みんな仲間」を発行し、これらの福祉教育に代わる啓蒙、啓発対策とした。福祉に関する全域への広範な情報提供は有益かつ、有効であり今後も継続することとしている。	△		
結・みつわ台地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、交流とふれあいの仕組みをつくりましょう	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	・コロナ禍期間を除けば上々の実績をあげることができた。現在、活動自粛が続いており、活動PRの在り方を模索中。	感染状況を見ながら、開催を目指す。	・「福祉のつどい」を開催し、社協職員(いきいきプラザ)による“血管年齢”及び“骨密度”測定を行い、30名の参加があった。	○	同上	
⑧ 活動の中核となれる人材の発掘			・機会があれば…ではあるが、活動休眠状態で打つ手なし。	自粛期間が継続しており、積極的な活動不可状態が続く。	・自粛期間が継続しており、積極的な活動不可状態が続いている。	×		
		⑫ 活動団体同士の連携・交流	・あんしんケアセンターみつわ台との良好な関係を維持しつつ、新たな企画を模索していきたい。	コロナ禍で先行きが見通せていない。	・コロナ禍で先行きが見通せていない。	×		

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】

◎:年度目標以上のものが達成できた場合
 ○:年度目標が概ね達成できた場合
 △:年度目標の一部が達成できた場合

×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
 —:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目 (第4期計画の重点取組項目)	令和4年度の目標又は予定		令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
			第4期計画の総括・今後の課題	令和4年度の取り組みの方向性				
千城小地区部会エリア	1 だれもが顔見知り、 交流とふれあいの仕組 みをつくりましょう	⑤ 気軽に過ごせる居場所づく り	・コロナの影響で、目標を大きく下回った。 ・ふれあい・いきいきサロンの定着を目指す	ふれあい・いきいきサロン開催時 は、3密を避ける。	・いきいきサロンは、3密を避け小人数で1か所(12回)実施した。	○	※令和5年度は、第5期計画の中間見直し を作業を実施しており、各地区部会で新た な重点取組項目の選定を行っている。 現在、新たな重点取組項目の選定を終え、 令和5年度から令和8年度にかけての年 度毎の年次取組目標および具体的な活動 計画を策定中である。	
⑦ 地域のできる介護予防・健 康づくり			・コロナの影響もあったが、目標は概ね達成できた。 ・開催時は、3密を避ける。	開催時は、3密を避ける。	・コロナ禍にあり、年末切り餅贈呈活動のみ実施した。	△		
⑭ 防災・減災活動の実施		・順調に実施できた。 ・未実施自治会への働きかけ ・自治会の枠を超えた地域横断型のパトロール実施	コロナへの呼びかけと共に、今後 も実施したい	・防災パトロール8自治会中3自治会で実施(月1回)。3密を避け実施可能なた め、今後未実施自治会に実施に働きかけを継続する。	○			
【人口・世帯数】 2,410人、1,293世帯 【町内自治会数】 9町内自治会 【高齢化率】 47.1% 【地域の特徴】 エリア内には1町(大宮町)しか含まれて いない、小学校は設置されているが、児童 数は区内で最も少ない。 古くから農業を営む世帯の地域があり元 気な高齢者が多く、また新たに作られた新 興住宅地がある。	3 備えあれば憂いな し、安全と安心の仕組 みをつくりましょう							